

令和3年度第6回社会教育委員の会議

令和3年12月10日(金)

午後6時00分開会

開催日時	令和3年12月10日	開会18時00分 閉会19時28分	
場 所	小金井市役所第二庁舎8階801会議室		
出席委員	議 長 柴田彩千子 副 議 長 福井 高雄 委 員 黒木 智道 委 員 石原 芳 委 員 金澤 大恵	委 員 北澤 隆司 委 員 森本 榮子 委 員 鈴木 哲也	
説明のため出席した者の職氏名	生涯学習部長 藤本 裕 生涯学習課長 関 次郎 生涯学習部オリンピック・パラリンピック兼スポーツ振興担当課長 内田 雄介	図書館長 菊池 幸子 公民館長 鈴木 遵矢	
事務局	生涯学習係長 小堀久美子		
傍聴者人数	2名		

日程	議 題	
第1	協 議 事 項	<ul style="list-style-type: none"> (1) 会議録の承認について (2) 生涯学習の推進について (3) 管外視察研修について (4) 意見・提案シートについて (5) その他
第2	報 告 事 項	<ul style="list-style-type: none"> (1) 第52回関東甲信越静社会教育研究大会について（報告） (2) 令和3年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第5ブロック研修会について（報告） (3) 令和3年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会の開催について (4) その他

柴田議長 皆さん、こんばんは。定刻となりましたので、令和3年度第6回の社会教育委員の会議を始めたいと思います。

本日は諏訪委員と富田委員から御欠席との連絡をいただいております。では、早速始めていきたいと思います。

最初に、議題の1番、会議録の承認につきまして、資料を御確認いただきたいと思います。

こちらにつきまして、事務局より御説明をお願いいたします。

小堀生涯学習係長 議事録についてです。こちらの皆さんに内容を確認させていただいたものを修正させていただいております。承認いただけるかどうか、お願いいたします。

柴田議長 こちらの内容は事前にメールでお配りしていたものだと思いますが、特に修正箇所などがありましたら、お知らせいただきたいと思います。いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。ありがとうございます。では、承認されたということで処理したいと思います。

では、議題の2番です。生涯学習の推進について。こちらは第4次小金井市生涯学習推進計画に関するものです。

では、こちらの説明は福井委員がしてくださるということですので、よろしくをお願いします。

福井副議長 お手元の次第の次に、第4次小金井市生涯学習推進計画があるかと思いますが、前期の委員が、ちょうどこの改定の時期にあたり、令和3年度から令和7年度の5年計画を第4次の計画として、1年間かけて、この大きな基本理念を含めまして、次の施策、3つの施策及び施策の事業内容を検討してまとめました。我々、4次の計画の1期のメンバーとしては、この生涯学習推進計画をもう少し具体的に推進したいということで、前期の引継ぎ事項等もありますようにし、プラス、地域学校協働活動の推進ということも含めて、この推進計画の中にあるということなんです。

今までは、29期の場合は、地域学校協働活動の実現に向けて提言について教育長に提言しました。前期は、この推進計画がまとまりました。今期は、皆さんの意見を聞きながら、我々の社会教育委員として、今後2年間、31期のメンバーとして、どういうテーマに基づいてやっていくかを、検討していきましょうということで、この第4次推進計画の推進というテーマで、皆さんの意見を集約しながら2年間検討していきたいと考えてい

ます。次回の会議は同じ第7回の本会議なんですけれども、三者合同となりますので、その次の2月に予定しています第8回の定例会議で、これに基づいて皆さんの意見を集約しながら、我々の31期の社会教育委員の方向性、検討する事項をまとめていきたいなと思いますので、来年の2月ぐらいまで、皆さん、各委員の方が、こういう方向性で、こういうテーマに基づいて提言するなり検討したいというものがあれば、まとめていきたいと思ひまして、本日の議題の2番ということで、大きく推進についてということで議題にしております。

簡単ですけど、以上です。

柴田議長

ありがとうございます。

今、福井委員から御説明をいただきましたように、前期、30期で、この第4次小金井市生涯学習推進計画というものを皆さんと一緒に作成をしたところですよ。

次回の定例会が第8回となりまして、2月にありますので、そこで今期、第31期の特に力を入れて、皆さんと一緒に検討していくテーマの方向性を決めるに当たりまして、こちらの概要版の資料をお配りしている次第ですよ。

それで前回、先々週でしたか、今期の初めての小委員会を実施しまして、そちらでは特に今回、第29期に提案しました地域学校協働活動をさらに推進させていき、それから小金井市のコミュニティ・スクール、学校運営協議会の活動も進んできているところですよ。小金井型のコミュニティ・スクールの推進していく上で必要な課題とは何かというようなことをテーマとして、学校と社会教育をつなぐというテーマでやっていったらどうかというような、小委員会では話の方向性になっております。

このことを踏まえまして、今日、諏訪委員と富田委員が御欠席ですよ。次回の定例会が第8回、2月ですよ。そのときに小金井のコミュニティ・スクールの動向や、それから、改めて、その前に、国のコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の制度のあらましというものを確認しながら議論を進めていこうという流れとさせていただきたいと思ひています。

前回の小委員会では、例えば、こういうテーマにしたときには、社会教育と学校教育をつなぐコーディネーターの力量形成が必要なんじゃないかというような話になりました。また、詳細は2月の定例会のときに御報告したいと思ひます。

資料1を御覧ください。これは文科省の資料なんですけど、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールとの、学校教育活動と社会教育活動との連

携の概念図のようなものです。左側が学校で右側が地域ということで、左側が学校の教育課程の中の話で右側が地域の社会教育の話です。

左側の学校運営協議会を設置している学校を、いわゆるコミュニティ・スクールといって、会議の中ではCSという言い方もしますが、こちらで協議されたことを、地域の方たちの力を借りながら実践をしていくのが地域学校協働活動と一般的に言われています。小金井型のコミュニティ・スクールを皆さんと一緒に考えていこうということで、小委員会では、コミュニティ・スクール、学校運営協議会を管轄しております指導課の方に、この場で小金井型コミュニティ・スクールとは何かということを一度御説明いただいて、委員の皆さんと共有した上で、この進め方を検討していただきたいと提案をさせていただいたところです。このことにつきまして、今、皆さん方から御意見などいただければと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

では、小委員会のメンバーでいらっしゃる森本委員と鈴木委員から御意見いただければと思いますが。

福井副議長

福井です。地域学校協働活動というのは、緑小がモデル校としてスタートしまして、本年度は第一小学校、前原小学校、南中ということで、合計4校が地域学校協働活動をスタートしております。

現状、小金井市の小学校は9校、中学校は5校、合計14校あるうち4校が地域協働活動の推進として運営中ということで、当然、また来年の4月から、残りの全校まですぐスタートはできないかと思うんですけど、ここ2年ぐらいで14校全て地域学校協働活動ということで、す。従来の学校運営協議会プラス、もう少し地域の住民の方が参加するような運営という格好で、地域学校協働活動、あくまでも学校を中心に、地域の企業、大学、全てを含めた協働活動という格好で、地域学校協働活動。従来のPTAと学校だけのつながりじゃなくて、より地域の幅広い活動をされている方たちと協働して運営していこうというような趣旨でやっていますから、今後、学校とPTAだけの関係じゃなくて、もう少し、より深く、地域の住民も参画していただくというように、学校を核として、地域住民が参画していこうというような取組に、社会教育委員がいかにもその中の橋渡しができるかということテーマにして、ここ2年間、検討していただければと思います。

以上です。

柴田議長

ありがとうございます。

よろしければ、森本委員、いかがでしょうか。

森本委員　　今、福井委員がおっしゃったように、学校とPTAということで今までやってきたのに対して、地域がしっかりとそこに入ってくるという、そういう感じになるかと思います。この前の研修で勉強させていただきましたけれども、それをスクール・コミュニティの創造という形で東京大学の鈴木先生の御講演で伺ったんですけれども、今までの学校とPTAが外に向けてというのではなくて、逆の形というか、地域が入って、そこに学校もPTAも入れ込むというイメージを持ちました。まだ私の中ではまとまっておりますけれども、これからの勉強だと思っております。

柴田議長　　ありがとうございます。
では、鈴木委員、お願いします。

鈴木委員　　鈴木です。前回、小委員会でお話しさせていただいた事の繰り返しにはなってしまうんですけれど、小金井型コミュニティ・スクールを考えるときに大いに参考になるのは三鷹の例だというお話をさせていただきました。柴田先生のほうから、コミュニティ・センターを核としたというような御説明もあったので、後ほど、小委員会に出られていらっしゃる方は、そのお話も聞かれたほうが良いと思います。

小金井型コミュニティ・スクールというものを、これからつくっていく段階ですが、まだ漠然としていて、自分の中にはイメージが明確にできていないんですが、幾つか提案したいことはあって、教育プランの委員のときにもご提案したんですが、八王子市では地域の人材を人材バンクのように教育委員会が登録をしていて、学校のニーズに応じて派遣するという仕組みを運営しています。

小金井に住んで21年になりますけれど、坂下の貫井南地域には、ロシア、メキシコ、アメリカ、カナダ、中国、タイ、あとそれからバングラディッシュと、すごくいろんな地域の文化を持った親御さんがいらっしゃって、外国の文化ということだけではなくて、ピアノが弾けたり、語学が堪能だったり、いろんなスキル、特別なスキルをお持ちです。

こういった方々が学校の活動に何か参加しているかということ、PTAの手伝いに少し来るとか、日本のPTAのあの雰囲気嫌だということで、PTAにも参加されず、運動会のお手伝いにちょっと来るといったような程度しか学校に関わらず、お子さんの学齢期が終われば地域や学校から離れてしまい、その後は、スキルを生かして就職されて、さらに縁遠くなると

言う非常にもったいない状況があると思います。

これだけの人的リソースが地域にあるのに、十分に活かせていない、使えていないということは、本当に損失だと思いますので、まず、それについては積極的に考えていきたいと思います。

それから、2つ目は、指導室の方に来ていただいて、制度説明をしていただくという話ですけれど、今、福井委員のほうからお話があったとおり、緑小では地域のコーディネーターの方が非常に有能な方と聞きました。実際にうまくいっているという例を、どういう点に苦勞されて、配慮され、成功しているのかという事例を聞かせて戴けたらと思います。

C S会長との雑談の中では、かなり苦勞されてP T A活動をされた後、C Sへつなげていかれているというようなこともあるようなので、制度の説明も確かに大事なんですけど、うまくいっている例を当事者から聞くというのもいいと思います。

それから3つ目は、先日、関東甲信越静ですか、研修に行かせていただいて、その中で二ノ宮リム先生がおっしゃっていた、あきしま会議というものがありません。

あきしま会議は社会教育委員が、こちらのほうから出向いて行って、地域の市民活動とか地域活動をされている方のニーズを聞いて、それをテーマとして会議で話していくというような内容だったと思います。

小堀さんに確認をしたところ、小金井市では、そういう取組をここ何年もされていないということなので、是非取り入れられたら良いと思います。

又、ゼロ歳からの社会教育ということで、妊産期の方から地域、社会、その社会教育というものに関わっていくような仕組みもあったほうが良いと思っています。

その理由は、今、地域にいるおじいさん、おばあさんたちが餅つきをやってくれたり、祭りの準備をしてくれていますけれど、この方々、どんどんいなくなっています。

ついこの間も、僕のことを息子と呼んでくれる自治会の役を長くやられていた方が、前小のラジオ体操に行き、帰って来たら、コロナでどこにも出られず、日がな一日テレビを見て過ごす。そんな生活を、この後、何年もしていくということを考えると、あと何年生きるか分からないので、親戚のそばへ行ったほうが良いということで転居されました。

この方、本当にお祭りも地域の活動も熱心にやられていた方で、その方が居なくなると、ほかの高齢者の方がそのお役を兼ねる様になります。後任の方も負担が大きくてやめてしまうと、兼務されていた仕事全てを誰もやらなくなってくる。

うちの子達もあと数年で小金井の学齢期を外れていく。だから、僕らを含めた子育て世代の人たちが自然にその地域の方とつながっていけるという流れをつくりたいと思いますし、それが、この地域学校協働を進めていく上でとても重要なテーマだと思っています。以上です。

柴田議長

ありがとうございます。

小委員会で話し合った内容というのは、より学校と地域をつなげるにはどうしたらいいかというようなことを話し合ったんですけれども、森本委員は、第4次の小金井市生涯学習推進計画の中で、特にゼロ歳から始める生涯学習ということを提案してくださいまして、鈴木委員も今、妊産期から始める生涯学習ということで、それは学校と地域をつなげる上でも、そういった考え方を生かしていけばいいんじゃないかというようなアイデアをいただいたところでございます。

その点に関しては、子ども家庭支援センターで、妊産期とか乳児を対象とした様々な取組がありますので、部局を超えて、そういうところと連携していくという視点も併せながら進めていくのがいいのではないかと思います。また、皆様方からアイデアなどありましたらいただきたいと思えます。

それから、あと、モデルにする自治体として、鈴木委員から三鷹市と八王子市というようにお話を伺いました。今までも三鷹や八王子につきましては、管外視察研修で訪問したことがありますので、また今期の管外視察研修、夏になると思いますが、そちらにも、そういったお考えを生かしていきたいと思えますので、ほかにも皆様方から管外研修についてのアイデアなどありましたら、随時いただければと思えます。

鈴木委員

先生、この三鷹の中学校の学校3部制について、ちょっとお話ししたいと思うが。アントレプレナー教育のお話、先日されていたかと思えますが。

柴田議長

実は、先日の小委員会の際に、三鷹市の事例を取り上げて、皆さんと一緒にお話をしたんですけれども、三鷹市ではそもそも約50年前に、鈴木平三郎行政のときにコミュニティ行政というものをスタートして、そこは公民館がなくて、コミュニティ・センターがあるんですね。コミュニティ・センターを各コミュニティに1つずつ置いて、そこがまちづくりの中心というふうな位置づけになっています。ここに中学校区が沿う形であって、その中学校区を三鷹市では学園というふうに呼んでいます。中学校区です

ので、中学校1校に対して小学校が2校、3校の規模で運営しています。

学園を基盤として小・中一貫教育としてコミュニティ・スクールを進めていまして、各学園にだいたい2名ずつ、スクール・コミュニティ推進委員という方がいらっしゃいます。

学校3部制というのは、その中で学校を核とした地域づくりをいかに進めていくかということの1つの方策として、今、試行的に始められているものでして、学校1部制の1部という部分は、いわゆる教育課程の部分です。学校2部制の2部の部分は、放課後の子供を対象とした学校の活動、学校3部制の3部は、いわゆる公民館のように大人の教育ですね。成人教育のために学校を活用していこうということと、学校を核とした地域づくりをいかに進めていくかということを進進するための部門です。

そこで、今年度から試行的にジュニアビレッジ構想ということが第四中学校で試験的に始まりまして、これは学校3部制を推し進めるための1つの方策として試行的に行われているんですが、これは何かというと、中学校の畑でサツマイモを苗から子供たちと、それから地域の方々と一緒に栽培しまして、それをただ収穫するのではなくて、地域の商工会議所や市民活動センターと連携しながら、子供たちのアイデアで商品化をするというプロジェクトでして、地域の製粉会社やお菓子屋さんなどと一緒に子供たちが商品名を考えたり、もちろんお菓子の内容を考えたり、販売方法を考えたりというようなアントレプレナーシップ教育、起業家教育というところと絡めて進めているというものです。それを中学校の部活動の位置づけという、そういう考え方も持って、放課後の子供の活動と、それから地域の地域おこしの活動を連携させて、学校3部制の3部で進めていこうというような1つの取組です。こういう取組が近隣の自治体で進んでいるというお話を、ちょっとさせていただきました。

三鷹市は市民活動センターや、それから市民活動団体がコーディネーターとなって、市から予算をもらって進めているんですけども、そういったことを小金井市は社会教育側から発信できないかなというふうなことで、この間の小委員会では、そういう話を皆さんと一緒にしたところです。

ほかに何かこの件でアイデアや御意見ありましたら、よろしく願いいたします。

石原委員はいかがでしょうか。現在、南中学校で学校運営協議委員をされていらっしゃいますが。

石原委員

小金井型のCSというのは、小金井市ならではの強みを生かしてつくっていくべきだと思うんですけど、CS、学校運営協議会を始めた当事者か

らすると、全く南中は進んでいないので、行き詰まっているという感じ
です。

多分、学校内で全部やらしてもらおうとすると、絶対にキャパオーバー
だったりとか、知識がない方々が多い中で、じゃあ、今後、どうやって進
めていこうかという協議すら、まず成り立たないというところなので、あ
る程度、漠然とした形でお渡しするのではなく、こちらで道筋を立ててあ
げないと、まず協議会になられた方々は全く分からない中に来て、前日も
お伝えしたとおり、何も知識がない中でやっていくというのがないので、
じゃあ、地域コーディネーターさんを探しましょうとあって、皆、校長か
ら声をかけられたとしても、その中で、じゃあ、やってくれる方がいるか
どうかとか、じゃあ、地域に人材を持っている人がいるかどうか、コーデ
ィネーターになってくれる人がいるかどうかを探すがまず大変で、そ
こで行き詰まってしまうと、じゃあ、先に進めない。先に進めないと、も
うそこで止まってしまうんで、何も動けない状態になんですよ。なので、
やっている立場からすると、コーディネーターさんを見つけるということ
自体が結構大変な作業になってくる。見つけてしまえば、多分、コーデ
ィネーターさんが先に進めてくださって、いろんな人材がいるんですけど、
どうですかというのとか、あと学校のそういう協議会の中で出た意見を照
らし合わせてというのができると思うんですけども、そのコーディネ
ーターさんがいないがために行き詰まってしまうのがあるので、多分、
どこの学校さんも始めていく上で、そこって一番ネックになるところで、
八王子のさっきの鈴木委員からの意見があったとおり、八王子さんと、
そういうボランティア団体というか、コーディネーターさんをあっせんし
てくれるようなところができたりとかしている団体は、そこにどうしたら
いいですかと声をかけたら、多分、こういう方いらっしゃいますよとい
うあっせんしてもらえと思うんですけど、まだ小金井市って、そこまでも
まず行っていないので、じゃあ、どこに相談したら先に進むかなとか、じ
ゃあ、どうしたら次に進めるかなというのが全然ない中で進めなきゃいけ
ないという。特に小学校と中学校の違い、今やっていることがあるかない
かの違いもかなりあるので、その辺の道筋じゃないですけど、立ててあげ
ないと、中学校はかなり気をもんでやっていかないと、1年という中で、
じゃあ、1本道筋できますかというの、かなり大変で、緑小さんなんかは
1年の準備期間があつてのスタートだったので、かなりスムーズにいけた
のかなというところもあるので、私たち社会教育委員の中だと、管外学習
行って、情報を仕入れて、コミュニティ・スクールってこういうことをす
るんだなって前段階が多分あると思うんですけど外部の方ってそういうの

もなく、そういうあっせんというのなかなか学校から声がかからない限り連絡の取りようもなかったりなので、そういうところも、もう少し社会教育委員として、こういう案内ができたとか、市として、こういう協議会の方に案内をしてあげて、ぜひ参加してみませんかというあっせんができるだけで、かなり知識がある中でできるのかな。

多分、今期なられた方も、じゃあ、社会教育委員の中でコミュニティ・スクールと言われて、多分、えっ、何、その話という方が多いと思うので、そこがやっぱり前段階、今みたいに柴田委員とか、知っている方が教えてくださいと、ああ、そういうことなんだなというのが多分分かると思うので、じゃあ、始めてくださいというよりも、前段階に何かがあって進めていくほうが、もっとスムーズで、前原小さん、今年すごいうまくいっているという話を聞くんですけど、やっぱりコーディネーターさん、しっかりベテランの方がいたりとかというのがあるので、かなりうまく道筋立てていけているのかなというのは、かなり見ていると思うんですね。

あとは同じ学校区なので、前原小と南中というのは。なので、やっぱりコーディネーター取り合いじゃないですけど、あ、持っていかれちゃったみたいなどころは出てくるかなと。両方、じゃあ、一緒にやってくださいというのはかなり負担になるので、そういうところもありながら進めていかなきゃいけないというのは、ちょっと同じ校区内だと難しい部分があるかなと、やってみてちょっと思ったところもあるので、それこそ緑小さんなんかは、一番最初に始めて、周りまだ始まっていないので、これから周りやっていくときに、じゃあ、コーディネーターどうしようで多分つまずいていくのかなとか、来年度、中学校入ったときに、まだ南中が全然できてないので、相談されても、ちょっとお答えできない苦しさも出てくるかなというのもあるので、なるべくならコーディネーターさんというあっせんの場所とかもつくってあげつつ、じゃあ、この学校内では何ができるかなというところに結びつけてあげることが一番うまく進みやすいかなというふうに思います。

やっぱり年に5回しか協議会の場もないので、1年で、じゃあ、ぼんというわけにはやっぱりいけないので、ちょっと長い目を見つつ進めていかないと、一気にちょっと進まないかなというところも、やってみて思ったところですよ。

なので、先を先をとというよりは、もう目先のことを順序よくやっていくほうが早く進む道なのかなというふうには思います。

柴田議長

ありがとうございました。

福井委員、お願いします。

福井副議長 コーディネーターの成り手がいないというお話だったんですけど、私がちょっと記憶しているところによると、学校運営協議会は、コーディネーターを含めまして、学校長がコーディネーターを委嘱する。と、それで地域学校協働活動は学校長じゃなくて生涯学習部のほうで選任されるというような位置づけで認識しているんですけど、事務局のほうとしては、コーディネーターの委嘱というか、選任というか、そのルートとしては、地域学校協働活動のコーディネーターとしては生涯学習部のほうで選任されるということでしょうか。

関生涯学習課長 福井委員おっしゃるとおりですね。地域学校協働活動の委員については、社会教育法に基づいた事業というところで、教育委員会、事務局では生涯学習課から委嘱させていただいております。コミュニティ・スクール、学校運営協議会というのは学校教育というところで、事務局としては、同じ教育委員会が担当にはなるんですけども、指導室が学校運営協議会委員を任命させていただいています。

福井副議長 説明の通りですから、南中に関してのコーディネーターということは、やっぱり生涯学習部のほうの選任ということですので、積極的に依頼されたほうがいいと思います。

鈴木委員 今、そのコーディネーターについては、具体的にはどういうふうにして見つけてきて、任期は何年とうことが、何か決まっているのでしょうか。

関生涯学習課長 地域コーディネーターでいいますと、任期は委嘱年度末までとなっております。どなたに委嘱させてもらうかということなんですけれども、確かに中学校についてはコーディネーターをしてくださる方を探すことが大変な部分もあるかなと思うんですけど、小学校の場合は放課後子ども教室のコーディネーターさんが今現在やっただけというのがありますので、やはり学校から、こういった方を地域学校のコーディネーターということで考えているというか、推薦いただくという形じゃないですけども、それで委嘱させていただいているというのが実態です。

鈴木委員 なるほど。そうでしたね。

柴田議長 第30期の7月の会議の際に、黒木先生の御尽力で緑小学校のコーディネーターの方3名においでいただいて、研修会を行いました。黒木先生、いかがでしょうか。緑小学校はうまくスムーズに学運協の活動が進んでいるということにつきまして、先生の御意見いただければと思います。

黒木委員 コーディネーターを3名委嘱しているのは、あちこちにそれぞれ明るい方向があるという方を探した結果です。放課後子ども教室の担当をしている方、元PTA本部役員の保護者の方、民生・児童委員の方、3人を選んでコーディネーターをお願いしているので、様々な人材や地域との関わりが取れるような状態ができています。

関連して、以前、私が勤務した学校でも、そのうちコミュニティ・スクールが始まることを見越して、どなたをコーディネーターにしようかと考えていました。学校運営連絡会に、この方に参加していただくなど、少しずつ準備をしていました。コーディネーター候補として考えていたのは、先ほど関課長から話があったとおり、放課後子ども教室の担当者でした。というのは、放課後子ども教室を運営するために、こういう人に来てもらって、こういう活動をしてもらおうとか、常に考えて人材を探している方だったので、コーディネーターとしてふさわしいと思ったからです。

学校によく関わっていて地域をよく知っていらっしゃる方を、アンテナを高くして探しておくという準備が必要かと思います。

柴田議長 ありがとうございます。

やはり石原委員が南中学校での課題とおっしゃっていただいたとおり、委員の選任を黒木先生が今おっしゃったように、前々から進めていかなければならないということや、学運協を発足した後のバックアップ体制ということですが、例えば、研修会とか、あとコミュニティ・スクール同士の市内の情報交換会とか、小金井市では、そういうことも必要になっているんじゃないか思います。

また、2月に詳細に検討していきたいと思いますが、この件で、北澤委員と金澤委員も御意見いただければと思いますので、お願いいたします。

北澤委員 この活動はこれからということなんだと思うんですけども、やっぱり中学になると、子供との関わりが、小学校のときって、すごく私も学校に関与することが多く、学童とかを通じてできたんですけども、やっぱり中学になると、だんだんそこが、子供側も少し距離感を持つケースもあっ

たりとかということで、なかなかというところで、だからやっぱり、これからということであれば、小学校とかをまず中心に、徐々に中学というような。

ただ本当は、すごくそれがもっと役に立つというか、効果がより出るのは、中学で子供を含めて成長していく中で、いろんな活動。どうしても小学校って親中心の活動になりがちなんだけど、中学とかになってくると、子供が生きてくるような活動がもっともっと範囲を広がりとか、内容が高度になったりとかというところもあるので、小学校からスタートするにしても、やっぱりその先のところをしっかりと考えて、どこかモデルでも進めていけばいいのかなと私は考えました。

柴田議長

ありがとうございます。

金澤委員、お願いします。

金澤委員

3つありまして、1つ目は小委員会の報告書というのはあるのでしょうか。

批判というわけではなく、もしありましたら、さっき鈴木委員が、聞いたほうがいいよと、アントレプレナーの話などおっしゃってくださったので、なるほどと思ひまして。もし、事前にお配りいただけたら勉強の機会があればさせていただきたいと思ひます。

2つ目ですが、三鷹市でできて小金井市でできないことはないのかなと真面目に考えております。私も小金井市出身で、海外でも勉強した経験もあるので、例えば、在住経験はないのですが、アメリカでは、先ほど海外の方もとおっしゃっていましたが、ボランティアがかなり活動しています。私の父は元ボーイスカウターで、地域活動のようなこともいろいろ含めやっておりました。では、日本ではなぜ地域コーディネーターがあまり名のりを上げないのか。先ほど鈴木委員と石原委員がおっしゃっていた地域コーディネーターの難しさだとか、いい人材がいるのになとか、皆さん結構アンテナを張られているかと思うので、知恵がおりかと思ひます。それらを結集しまして、「それ、参加してみたい」、「こっちのチームに行ったら楽しかも」など、何かそういうような活動に参加する動機につながれば良いと思ひます。例えばアメリカとかだと、バッジやTシャツなどみんなで同じものつけるとかをやっています。それを見た方たちが、「あのTシャツ着たいな」「参加したいな」みたいな感じで。そういうことに予算をつけています。そして、ロゴとかも格好いいんですよ。ボーイスカウトは世界中にあるんですけど、日本ではどんどん縮小していますが、韓

国などはロゴなどを子供たちが憧れるようなデザインにしたりなど色々工夫しています。それで、実際にその収益で、今度はまた違うことを子供たちのためにやるみたいにやっています。

ですから、魅力あること。活動に参加する動機へつながるような魅力をつけないといけないのかなというふうに思います。

今、魅力がないと言っているつもりはないです。ただ、せっかくこうやって委員をやらせていただいて、先輩方の話を伺って、議長と副議長とそして委員の皆さん集まっているので。何か具体的に決めて動く具体的な結果がついてくるのではないかというふうに思います。まず費用があまりかからないところから始めてみてはどうかと考えております。

柴田議長 ありがとうございます。

金澤委員 ありがとうございました。すいません。

柴田議長 でも、新しい風を入れていただいて、いろんなアイデアを皆さんと一緒に検討させていただきたいと思います。

金澤委員 ありがとうございました。失礼します。

柴田議長 森本委員、どうぞ。

森本委員 今のお話をお聞きする中で、皆さん、先ほどのコーディネーターを3人選んでとか、コーディネーターを選ぶという、そういう形をイメージしたときに、選んでそれを充てるというんじゃないくて、それも必要だと思うんですけども、今の金澤さんのお話にもちょっと出てきておりますけれども、双方向でというんでしょうか、私たちはこういう推進計画を立てて、こういう企画を練って動いていくわけですから。具体的に、この年度のもを具体化するために、今のコミュニティ・スクールの中に、社会教育委員も積極的にコーディネーターの役割を担っていくのもいいかなと思いました。さっき海外の話も出ましたけれども、日本に来ている海外の方たちもとても積極的なんですね。

私もそういう方と関わっていたこともありますが、自分の子供が学校に所属しているときは活動に参加しても、いろいろな高い能力を持った方が多いのですが、終わったらいなくなってしまうので、とてももったいなと思っています。そういう意味で、社会教育委員の役割としてはこの辺りの

ことはどういうふうになってくるのでしょうか。

藤本生涯学習部長 1点いいですか。まず、第29期の委員の皆様にご提言をいただき、コミュニティ・スクール、また地域学校の動きは、それで早まり、令和2年から試行も含めて開始をしていったという形になりますが、今までなかったものをこれからつくっていくというのは、すごい難しいことで、最初、学校運営連絡会から発展させながら、学校運営協議会として、またコーディネーターの方も選んで、そこから地域学校につなげていければなというところで、今、取り組んでいるところです。先ほどからお話あったように、地域には、やはり優れた人材の方がたくさんいらっしゃいますから、例えば、放課後子ども教室のスタッフについても、人材というところでは求めているものがありますので、いかにその人材を学校と地域をうまくつないでいくかというのが、この地域学校協働活動になると思います。

難しいのは、放課後子ども教室は小学校にはありますが中学校にはないというところもあり、また、学区域の問題もありますが、小金井は中学校区の学区域と小学校区は必ずしもイコールじゃないということ、その辺も三鷹と違うところなのかなと思います。

ただし、やはりこれ、今、例えば、中学校でも、部活動の指導員の方を求めているとすると、地域学校みたいところで、そういう人材を地域から協力していただくという形は、実際にこれは早急にやっていかなければならないことと思っていますので、何とかそういう形を、パイロットケースというか、緑小をいい例にしながら、これから増やしていけたらいいと思っています。やはりその人材というところが一番悩んでいるところで、その人材というのを一番知っているというところは、学校というところと思っていますので、まずは学校運営協議会、コミュニティ・スクールのほうから、そこをしっかりとつくっていただいた中で、そこから地域学校のほうにもシフトしていく。要するに、そこがしっかりした上でもって、地域学校のほうに、いろんな、地域の人材をそこで入れていくような形。例えば、公民館であったり、体育協会であったりとか、いろんなものを入れておくことによって、また、その辺のつながり、もっと入れたほうがいいといえれば、地域の方を入れていくことになるでしょうし、その、今、システムがなかなか確立したものがいい中で、どのようにやっていけばいいのかなというところが、今、悩んでいるところで、今後、その辺の意見を聞きながら、各、今、成功している例なんかも聞きながら、生涯学習のほうでも、取り組んでいきたいなというふうに思っています。

森本委員 先ほど一言申し上げたように、社会教育委員は、そのところで何やら積極的にもう少しそういう部分に関わっていくという何か動きをできるとか、するとか、そのようなことについてはどうなのでしょう。

藤本生涯学習部長 社会教育委員というよりは、行政もそうですけれども、今ある学校運営連絡会のほうにCSの仕組みをしっかりと伝えたりだとか、地域学校のことの取組のことを伝えたりだとかというところになるのかなと思っています。

そのほか、やはり委員の皆さん、地域のことに詳しいですので、そこに助言できるようなものがあればいいのかなというふうに。

森本委員 システムづくりについては、小委員会でも言葉がたくさん出てきたと思います。そのシステムづくりというのは、誰が音頭を取るといいのでしょうか。双方向と言いましたのは、私たちも何かできるものがあるのではないかと、そういうものの体制づくりとか、システムづくりとか、そういうものができてきたら、もっと推進できていく、スピード化するんじゃないかしらと思っておりますので。

関生涯学習課長 生涯学習課長です。今、部長が申し上げたことで、ちょっと補足じゃないんですけど、多分、社会教育委員さんとしての立ち位置とか役割というところかなと思ひまして。

森本委員 はい、分かりました。

関生涯学習課長 社会教育に関する政策提言というところで、教育委員会に御助言とかいただくという機関かなと思います。なので、この間の地域学校協働活動に関しての提言という形をいただきました。それまでの期においても、それぞれいただいたと。それを踏まえて、教育委員会で推進していくためにどうしたらよいか、そういう御意見を伺いながら実行に移すというのが、教育委員会の事務局の役割かなと思っています。

実働的に、例えば、コーディネーターの話が出ましたけれども、すごく具体的に言ってしまうと、誰かいい人がいるからとか、そういう実働的にもう動いていただくということもあるのかなとは思っています。多分、皆さん、それぞれ地域の方なので、それぞれネットワークをお持ちの中での活動というものもあるのかなと思うんですが、社会教育委員さんとしては、こういった形での政策提言いただいた中で、我々は事務局、教育委員会と

して、どうやっていくかということは考えていかなければいけないと思っています。

森本委員 分かりました。何か、漠然としたものが形になってくるといいかなという感じがいたしました。

柴田議長 ありがとうございます。

鈴木委員 鈴木です。法律の立てつけを見てみると、社会教育委員って個人としてもいろんな活動ができるということになっていると思うんですけど、今、課長がおっしゃったのは、この委員会でまとまって提言する形を取らなければならないのか、委員個人がこういうことをしたほうがいと提言をすることができるのかという点ではどうですか。委員がフィールドワークをしてきて、これをやりませんかという提言を、この会議のテーブルに載せる事が出来るかというところ、ちょっと教えていただけますか。

関生涯学習課長 そうですね。基本的には、やっぱり各それぞれの意見というのはあるかと思うんですけども、やっぱりその個々の意見というよりも、社会教育委員としての意見かなと。だから、その社会教育委員さんの意見として、それを醸成するに当たっては、それぞれの立場で、それぞれの考えの下でいただくような形になるのかなとは思っていますので、もちろん、だから個々の意見を反映した中で、1つのものを構築していくという形なのかなと思っています。

柴田議長 ありがとうございます。

個々の委員さんの御意見は、全体の意見として、皆さんに同意を得られれば、組織として、29期のときのように、提言という形でまとめさせていただければと思います。

小堀生涯学習係長 小委員会の内容についてですが、これまでは、小委員会で話し合った内容で、本会議で必要なことについては、小委員会の話のまとめという形で資料提出させていただいていたんですけども、本日の会議については、もともとは、柴田議長に地域学校協働活動のことをお話しいただくという段取りで、その中で、小委員会で説明いただいたことも話していただく予定だったため、小委員会での内容についてのまとめを準備しておりませんでした。今後は小委員会の後、本会議という形の流れの中では、小委員会

で話し合ったことで必要なことは資料として出させていただきたいと思
いますので、今回については、急変更だったため御用意できませんでした。
すいませんでした。申し訳ありませんでした。

柴田議長 2月に、より多く委員が出席するところで、そういった全体の共通する
お話をしようということに変更になりましたので。

金澤委員 勉強したほうがいいかなと思っただけなんで。

柴田議長 ありがとうございます。

金澤委員 小堀さん、ありがとうございます。

柴田議長 では、そうしましたら、また次回の定例会で、引き続き継続審議とさせ
ていただきます。たくさんのお意見ありがとうございました。

では、議題の3番に進みたいと思います。管外視察研修についてです。
事務局のほうから、御説明お願いいたします。

小堀生涯学習係長 資料2を御覧いただきたいと思います。こちらの平成18年度以降に、
市外の施設等に研修に行った先を記載しております。

平成27年度、令和2年度については、それぞれ計画を作成していた期
間であったり、コロナ禍であったこともあり、研修には行っておりません。

研修の行き先については、会議の中で話し合っている内容等に沿って勉
強できる先を皆さんに御意見をいただいて決めていただいています。今回
は、令和4年度に向けて、どういったところに研修に行きたいかというア
イデアをいただき、今日この場で行き先を決めてくださいということでは
なくて、こういったところに行っているということをご参考にしていただい
て、令和4年度に皆さんがどういう意図でどういうところに行きたいかと
か、そういうアイデアを、第8回の会議のときに出していただきたいと思
います。行き先については相手先もありますので、2か月前とか3か月前
に決めないと、なかなかうまく調整することができないので、できました
ら第8回の会議のときに、皆さんからアイデアを出していただき、そこで
一定出たアイデアを基に研修先を決めたいと思っておりますので、資料と
してつけさせていただきます。

柴田議長 御説明ありがとうございました。

2番の視察候補先ですが、これは令和2年度に候補となっていたものですので、新たに委員になられた方からもアイデアをいただいて、また再検討させていただきたいと思います。

具体的には、今後、アイデアが出そろったところで決めていきたいと思いますが、清瀬市と市川市、横浜市、習志野市と出ています。こちらのほうが、ちょっと小金井市から遠いので、行くとしたら1か所ですかね。1か所しか行けないですが、例えば、もっと近隣の自治体であれば、従来のように2か所、1日に視察することができるかなと思いますが、アイデアがありましたら、また小堀さんのほうに御連絡いただくのでよろしいでしょうか。

小堀生涯学習係長 はい。

柴田議長 よろしくお願いいたします。

では、次は意見・提案シートについてです。こちらも事務局より御説明をお願いいたします。

小堀生涯学習係長 資料2の裏面に資料3として意見・提案シートがあります。こちらは期が替わるごとに、意見・提案シートをどういう形で取り扱うかということを検討することになっておりますので、資料としてつけさせていただきました。

29期、30期については、この意見・提案シートを社会教育委員の会議の場で傍聴者の方に配らせていただいて、傍聴された方が意見・提案があれば、こちらを出していただくという形でしたけれども、第31期に期が替わりましたので、この意見・提案シートをどのような形で扱うかということ、話し合っていたいただければと思います。

柴田議長 御説明いただきまして、ありがとうございました。

こちらのシートの取扱いですが、従来、傍聴者の方対象に記載していただくものです。しかし、シートのこの存在を広く知っていただく仕組みのようなものがあったらいいんじゃないかという御意見が小委員会では上がりました。皆様方から、従来のおりの扱いでよろしいというようであれば、そのように進めさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。御異議ございませんでしょうか。

鈴木委員 これ、いいですか。鈴木です。

柴田議長 はい。鈴木委員、お願いします。

鈴木委員 やっぱり話は聞いたほうが良いと思います。夕方の時間だったら傍聴にも来られると思うんですけど、午前中の時間というのはなかなか、一番僕らがアプローチしたいような人たちは傍聴に来られないですよ。

傍聴に来ないとこのシートがもらえないという形にしておくよりは、大した手間ではないので、どこか社会教育委員の会議に関係するところへ、意見シートみたいな形で、PDFで載せておけば良いと思います。

社会教育委員に何か言いたいという人、いるかもしれませんよね。例えば、今はまだこの会議自体がそんなに認知されていないと思うんですけど、今後、CSを進めていく中で、森本委員がおっしゃったように、社会教育委員がリクルーターのような役目を果たすということになってくると、もっといろんな人の視線が集まるというか、いろんな人が、この会議について知ると思います。

そのときに直接委員へつながっていない人も、自分たちの行っている地域活動とか、意見を言いたいということになれば、このシートを積極的に活用していただいたほうが僕は良いと思うんですけど。傍聴に来ないともらえないという、プレミアチケットみたいな扱いではなくてですね。どうでしょうか。

柴田議長 御意見ありましたら御発言ください。

森本委員 私も賛成です。良いと思います。

柴田議長 石原委員、お願いします。

石原委員 鈴木さんのおっしゃったとおり、多分、載せて、皆さんから意見を集約するというのはいいと思うんですね。多分、会議録とかを読まれる方は結構いらっしゃると思うので、その中で、やっぱり疑問に思ったことがあれば、書いてもらって、ここで取り上げる、取り上げないはまた別にして、どんな意見があるのかというのは、やはり今後、CSを進める上でとかというのは必要になってくるかなと思います。

やはり来た人だけが書ける。じゃあ、来てない人は読んで、何か思ったことがあっても、じゃあ、どこに問合せをしたらいいんだろうとか、じゃあ、生涯学習課って書いてあるから、生涯学習課へ電話すればいいのかと

か全く分からないと思うので、せっかくだったら、読んだ方から意見を聞くだけは聞いてもいいのかな。それをここに持ってきて、じゃあ、議題にするのかどうかというのは、今までどおり小委員会のほうでもんでいただいたりとかいう形でやっていただければ、よりよい形で運営の仕方だったりとか、今後の社会教育の在り方だったりをお話しできるかなと思うので、ぜひ、元のこのデータがあるのであれば、簡単にできるかなと思うので、やっていただければ、あとはその提出方法がどういうふうになるかというのは生涯学習課のほうで多分されるかと思うんですけども、そちらはまた小委員会なりここで話し合いをしていただいて、取扱い決めていければいいのかなと思います。

柴田議長 ありがとうございます。
ほかに御意見いかがでしょうか。
事務局からいかがでしょうか。

藤本生涯学習部長 では、生涯学習部長です。

今までと同じように、もちろん傍聴の際に、それ置いておきますが、それ以外のときも、この会議を開催しますというお知らせをする通知のところに、そういう提案シートを合わせて掲載する等、検討したいと思います。

小堀生涯学習係長 どこに置くか等については、事務局にらせていただいて、ただ、皆さんの中で、幅広く見てもらったほうがいいんじゃないかということで決まりましたら、ホームページに載せる方向で進めていきます。

柴田議長 はい。ありがとうございます。

藤本生涯学習部長 ホームページの載せ方については、会議録のところに載せるのかどうなのかというところがありますけれども、分かりやすいような形で載せていきたいと思います。掲載の前には、小委員会に諮らせていただく等、どう掲載するかを相談したと思います。よろしくをお願いします。

柴田議長 ありがとうございました。では、そのように進めさせていただきたいと思います。書き方もよろしいですか。

では、次に進みたいと思いますが、(5)のその他ですが、こちらにつきまして、事務局からお願いいたします。

小堀生涯学習係長 特にないです。

柴田議長 では、報告事項に移りたいと思います。
報告事項1番の第52回関東甲信越静社会教育研究大会についての報告です。
こちらは福井委員が資料を用意してくださっております資料4です。
では、お願いいたします。

福井副議長 福井です。お手元の資料4、関東甲信越静社会教育委員研究大会が、1月11日、府中で開催されました。
社会教育委員は、記載のとおり、7名の委員と職員2名で9名で参加させていただいた内容です。
アトラクションで、写真にありますように、ふちゅう体操、元気一番！ということで、府中市のキャラクターも一緒に体操して、我々も体をほぐしたというのがアトラクションでスタートしまして、開会式に移りました。
主催者の挨拶として、長畑実行委員長はのほうで、対面の学びというのが非常に重要であるということで、今はコロナ禍で、人と人とのつながりが非常に過疎になっているということで、その対面の学びの見直しということも強調されました。
また、東京都の梶野職員はのほうから、清瀬中学校において、東京都で初めてなんですけれど、コミュニティハウスということをスタートしたということで、東京都としてコミュニティハウスをつくる場合は補助金を出すということで、学校の施設を利用して地域の人が活動できる場所を提供して、一緒に学校の施設を地域の人が利用しながら、学校と地域がつながるといふ仕組みを設けたということです。、将来、このコミュニティハウスという言葉で、今後二、三年、常に東京都の書類では目にさせていただくと思います。
その後、基調講演ということで、牧野東京大学教授はのほうで、テーマ「みんながつくる（社会）へ」ということで、内容としましては、「つどえない社会」の新しいつながり。要するに、コロナ禍で社会がコミュニケーション不足を、オンライン等を含めました新しいつながりを通して、いかに共生社会につなげていくかというのが、今後、課せられた大きな課題ではないかということをおっしゃいました。また、次世代の子供に希望をつなげるための自立ということをしてテーマにして、学びの基盤をつくる社会を目指さなきゃいけないんじゃないかという御提案をいただきました。いたと。それと、子供と親の帰属的關係性。昭和の時代は子供は親に従ったという

ような時代背景だったんですけれども、近年は逆に、親も子供も対等の関係になっているということで、それが関係を、もう少し同じ会話をしても対話的な学びということで、親と子供も今後人生100年時代においては共生のつながりも必要でしょうというような時代背景になってきているという御説明がありました。

この基調講演を踏まえて、牧野教授を含めまして5人がトークセッションをされました。けれど、皆さん、各個人で、その基調講演の内容に対してお話しされたんですけれど、内容的には、子供、地域、学び、社会教育という言葉は皆さん端々にこの言葉を入れられながら、説明ということ等をされました。それで、地域力を生かした取組、または子供と地域と学校のつながり、あと一番強調されたのは、体験できる居場所づくりということです。は非常に強調されました。ですから、みんながつくる社会というのは、つながりがない共生社会の時代になっているけれど、もう少し子供たちが体験できる居場所づくりを提供していくことの必要性があるんじゃないかということをおっしゃったということで、まとめております。

次回は関東甲信越静研究大会は山梨大会でやるということで結んでおります。

以上です。

柴田議長

福井委員、御報告ありがとうございます。

基調講演を踏まえてのトークセッションということで、より小さいコミュニティをたくさん地域にいかにつくるかというようなことをテーマとしたお話でしたし、トークセッションにもそういった要素が入っていたように思いました。

では、次の裏面を御覧ください。資料5になります。

こちらにつきましても、福井委員から御報告をいただきます。

福井副議長

第5ブロックの研修会、昨年度は小金井市が幹事市で、今年は狛江市が幹事市ということで、輪番制で6市が担当しております。参加市は武蔵野、三鷹、調布、府中、小金井、狛江という、この順番で、来年はまた繰り返す、武蔵野市が幹事市となります。今回は、人数制限がございまして、各市5名以内ということで、全員の6市で約30名の方が参加しました。

1番目の基調講演として、深大寺の住職の張堂さんが、コロナ禍における生活様式の変化ということをお話しされました。お寺自体は日常生活の社会教育の場であると。具体的に言うと、例えば、お通夜とか法事とか、これもそのお寺に行って学ぶこと自体も社会教育の一貫じゃ

ないかということ強調されてお話しされたのと、もう1点、2行目にありますけれど、205年ぶりに特別公開されたお大師様、鬼大師という言葉なんですけれど、鬼大師は疫病退散のお利益があるということで、深大寺で公開されたということで、たまたま11月3日から21日の予定だったんですけれど、来客の御参拝の方が非常に多く、2日間、さらに延長して開催したということで、やはり悪人を折伏すということで、疫病退散で深大寺にお参りに来られた参拝者が多かったということを説明されました。

その後、各グループに分かれまして、こちらはもう新たなテーマなんですけれど、新しい生活様式における社会教育の実践ということで、コロナ禍において日常生活はどのように変わったかということで、4チームのグループに分かれまして話しました。たまたま私がいた6名のグループは、社会教育委員はPTA出身の40代の方が2名参加されまして、非常に若い提案をいただきました。

オンラインの活用というのは、当然、会議が中心なんですけど、お買物、通販も含めまして、そういう活動が増えたということと、家族との接する時間、子供との接する時間が多くなったということと読書の時間が増えたというのが、コロナ禍における日常生活のプラス面だというお話がありました。

逆に、皆さんはマイナス面は共有していると思うんですけれど、人とのコミュニケーション不足になったということと、イベント行事が減ったということと、あと来訪者の健康管理が増えたと。これはあくまでも主催者としての立場で、健康管理ということで消毒等、検温等含めた、そういう作業が増えたということで、今までと違うような生活様式が、逆の意味のマイナス面では、こういうことも増えたよということで発表しました。

あとは、今後、イベントの行事の復活。例えば、お祭りの復活ですね。そういうものも含めて、早くイベント行事の復活を目指したいということでまとめたということです。

次期に開催は、先ほどの輪番制で武蔵野市が来年度は幹事市として運営するという事です。

以上です。

柴田議長

御報告ありがとうございました。

では、次に(3)番ですね。令和3年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会の開催について、事務局より御説明をお願いいたします。

小堀生涯学習係長 こちらは、前回の会議後に、開催通知が届きましたので、メールでや

り取りさせていただいたものですが、本日は実施要項をお配りしています。

明日開催されるものですので、皆さんから出欠の返事はいただいております。今回は御都合が悪い方が多かったため、福井委員と、生涯学習課長の関と私とで参加させていただく予定です。

また開催後に報告ができると思いますので、よろしくをお願いします。

柴田議長

御説明いただきまして、ありがとうございます。

社会教育委員からは福井委員が御出席いただけるということで、よろしくをお願いいたします。

福井副議長

はい。

柴田議長

では、次はその他です。こちら事務局からお願いいたします。

小堀生涯学習係長 2点ありまして、1つは資料7、令和3年度小金井市成人の日記念行事についてですが、こちらの資料に書いてあるとおり、令和4年1月10日、成人の日に式典が行われる予定です。

例年、午前、午後の2部に分けて行っておりますが、コロナの関係で密にならないようにということで、3回に分けて行う予定です。

例年は1部でも2部でも、来ていただける委員の方皆様何人でも来てくださいということで御案内しているんですけども、今回は来賓の人数を制限させていただく関係で、各部1名ずつ来ていただければと思っております。

こちらについては事前にメールで、各部の時間を伝えさせていただいたので、できれば本日、どなたが出席いただけるかということを決めていただきたいと思います。本日欠席の富田委員から、出席してもいいということで言っていただいております。第1希望は第1部ということですが、ほかに希望される方がいらっしゃれば、2部でも3部でも構わないというお返事をいただいております。

以上です。

柴田議長

ありがとうございます。

では、こちら、成人式への出席者を決めたいと思います。皆様方から希望があれば、ぜひ立候補、お願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

黒木委員 第1部に小・中学校の校長会から、私が出席の予定です。兼ねてもよいものでしょうか。

関生涯学習課長 そうですね。黒木先生は校長会代表ということで、第1部にご出席いただく予定ですが、できましたら、社会教育委員としてどなたかに出席いただければと思います。

北澤委員 すいません。個人的な事情で、第2部で手話通訳のほうを担当させていただくんですけども、第1部に参加できると、来賓の方のお話が事前に聞いていいかなと思いますが、御希望の方がいらっしゃれば、かまわないです。

柴田議長 ありがとうございます。では、北澤委員に第1部に御出席いただいて、富田委員は第1部が第1希望ということでしたが、ほかも可能ということですので。

福井副議長 では、福井が第2部に出席しますので、富田委員に第3部でお願いできればと思いますけど、いかがでしょうか。

柴田議長 はい。ありがとうございます。
では、確認させていただきます。第1部に社会教育委員として御出席いただく方は北澤委員、第2部が福井委員、第3部が富田委員ということで決定いたしました。ありがとうございました。
では、その後も、ほかにございますか。

小堀生涯学習係長 最後に、資料8として、会議の日程をつけさせていただいております。途中までは、もう既に終了している会議ですが、次回の会議は1月12日水曜日が三者合同会議となりまして、タイトル、講師については、記載のとおりです。

あと、第8回の会議、こちらは日程のことは記載していなかったんですけども、2月21日月曜日の9時半から801会議室ということで、お願いしたいと思います。

年度をまたぎますが、日にちが決まっているのでお伝えしておく、4月23日土曜日に都市社連協の定期総会というのがありまして、時間は多分午後になると思うんですけども、府中市市民活動センター「プラッツ」で行われる予定です。

以上です。

柴田議長

ありがとうございました。

では、次回は1月12日に三者合同会議がございまして、定例会の次回は2月21日となりますので、よろしく願いいたします。

ほかに委員の皆様から何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、第6回の社会委員の会議、これにて終了とさせていただきます。御協力いただきまして、ありがとうございました。